

第6学年 体育科学習指導案

令和元年11月8日(金) 5校時
授業者 勝田 智志

1 単元名 跳び箱運動

2 単元の目標

- (1) 切り返し系や回転系の技の行い方やその補助の仕方を知り、基本的な技を行ったり、友だちの補助をしたりすることができる。 (知識及び技能)
- (2) 課題を見つけ、技能に応じた練習の場を選んだり、トリオでお互いの技を見合いながら、自分や仲間と考えたことを伝え合ったりすることができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 仲間の考えや取組を認め合いながら、積極的に運動をすることができる。 (学びに向かう力、人間性等)

3 授業の構想

トリオでの学び合い

今年度、幅跳びやハードル走等の陸上運動での学習の際、3人組のトリオを作って学習を進めた。お互いの跳び方を見合ったり、歩数を数えたり、iPadで撮影をした動画を見合ったりしながら、お互いにアドバイスを送り合い、試行錯誤をしながら、思考を深める場面が見られた。また、自己の記録の伸びだけでなく、トリオでの記録の合計の伸びを喜ぶ姿も見られた。

そこで本単元でもトリオでの学習を核として単元を構想し、課題解決に向けてお互いに学び合うことで、動きの習得を目指していきたい。そのために子ども同士で補助をさせたり、iPadで撮影をしてお互いの動きを見合ったりする場を意図的に設定することで、子どもたちが関わり合う機会を増やし、自らの伸びを実感するとともに、仲間同士で技ができる喜びを味わわせるようにしたい。

補助の仕方を知る時間の設定

動きの習得のために、補助は欠かせないが、現状は大人が補助をしていることが多い。正しい補助の仕方を子どもたちが知ることで、子ども同士で動きのポイントを考えながら練習できるのではないかと考え、単元計画に補助の方法を知る時間を設定する。本単元では、はね動作を身につけるための段階的な下位運動を行う時点から、補助の指導をあわせて行うこととする。

本時では、取り組む技を「首はね跳び」に絞り、トリオでお互いに補助をすることにより、子どもたちが安心して技の練習に取り組むことができるようにしたい。さらに、補助を経験することで動きのポイントについて考える機会が増えたり、友だちの動きを様々な視点から観察したりすることができる。技の習得にも効果的だと考える。補助をし合う中で、子どもたちの対話が生まれ、お互いに支え合ったり、考えを伝えあったりする姿を目指していきたい。

主運動につながる下位運動の導入

本時で取り上げる「首はね跳び」は、体を反らす「はね」の動きが子どもたちにとっては難しいと考えられる。そこで、主運動の前に「はね」の感覚を養う下位運動を取り入れるようにする。主運動である首はね跳びを行う前に、マットを使った首倒立(アンテナ)からのブリッジ、ステージを使ったはねの練習を十分に経験させることで、「はね」の感覚を養わせるようにしたい。その際、友だち同士で補助をし合うことによって、全員がはねる感覚を経験できるように配慮したい。

4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
切り返し系や回転系の技の行い方やその補助の仕方を知り、基本的な技を行ったり、友だちの補助をしたりすることができる。	課題を見つけ、技能に応じた練習の場を選んだり、トリオでお互いの技を見合いながら、自分や仲間と考えたことを伝え合ったりすることができる。	トリオで仲間の考えや取組を認め合いながら、意欲的に運動をすることができる。

5 単元計画（全8時間 本時6／8）

- 単元の見通しをもち、今まで学んできた技に取り組む。（1時間目）
- トリオをきめ、お互いの技を見合いながら、切り返し系（開脚跳び・かかえこみ跳び）の技に取り組む。（2・3時間目）
- トリオでお互いの技を見合いながら、回転系の技（台上前転・伸膝台上前転）に取り組む。（4時間目）
- 「はね」の感覚を養うための運動（アンテナブリッジやステージを使ったはね跳び）に取り組む、その補助の仕方について知る。（5時間目）
- トリオで補助をしたり、技を見合ったりしながら練習に取り組む。（6（本時）・7時間目）
- 練習の成果を発表する。（8時間目）

6 本時の学習（6／8時間）

(1) 本時の目標

トリオでお互いの技を見合ったり、補助をし合ったりしながら、首はね跳びの練習に取り組む、はね動作のコツを考え、伝え合うことができる。（思考力、判断力、表現力等）

(2) 展開

学習活動と子どもの取組	教師の支援と評価
<p>1 器具の準備，準備運動をする。 ・アンテナブリッジ (補助) 足を振り上げ，腰を支えるようにする。</p> <p>2 めあてを確認し，はねるコツについて考えを伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ けがの予防のため，特に首や腕を重点的に行う。 ○ 継続的に行っているはね動作を身につけるためのアンテナブリッジを行う。手を突き上げることや腰角をしっかりと閉じてから開くことを確認させる。また，補助の仕方を確認し，お互いに補助をし合いながら行い，本時のねらいにつなげるようにする。
<p>首はね跳びのはねるコツを考え，伝え合おう。</p>	
<p>(どこではねるか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足が真上から少し下に降りたときに斜め上に向かってはねると良い。 ・足が真上にきた時だと早すぎる。 ・足が下に向いた時だと遅すぎる。 <p>(手のつき方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手でしっかりとマットを押すと良い。 ・手と足が同時に動くが良い。 <p>3 首はね跳びの練習に取り組む，はねるコツを確かめる。 <練習の場></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ステージを使ったはね動作の練習の場 ・跳び箱を使った首はね跳びの練習の場 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の振り返りから，はねるタイミングと手の突き上げ方の2つの視点に絞って考えを問う。 ○ はねるタイミングを言葉で表すのが難しい時のために，足腰が可動するイラストボードを準備しておき，動かしながら話し合えるようにする。 ○ 仲間の考えを知ることができるよう，トリオの考えを表したイラストボードはホワイトボードに掲示することを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 自らの技能に応じて場が選べるように練習の場を2つ設定する。跳び箱での首はね跳びの練習の経験が少ないため，初めは，補助の片方に指導者が付き，安全に運動が行えるように配慮する。 ○ 補助を上手にやっているトリオを積極的に褒め，よりよい補助の仕方を意識できるようにする。 ○ 必要に応じて友だちの技を撮影しながら練習ができるように iPad をトリオに1台準備する。また，共有した考えの動きと実際の動きとを比較しながら話し合いができるよう，ホワイトボードの前で動画を見るように声がけをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">【評価の観点（思考・判断・表現）】</p> <p>トリオでお互いの技を見合ったり，補助をし合ったりしながら，首はね跳びの練習に取り組む，首はね跳びのコツを考えることができる。 (評価方法：運動観察，話し合い)</p> </div>
<p>4 本時を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足が斜め上にきた時にはねると良い。 ・○○さんのアドバイスでうまくはねることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 考え，試してみた「はねるコツ」は効果的であったかどうかという視点で振り返りを行い，子どもの考えや思いを探る。